

佛教大学 法然仏教学研究センター

Hōnen Buddhist Studies Research Center of Bukkyo University



『選擇本願念佛集』（建長頃版 佛教大学附属図書館所蔵）



佛教大学

＜法然仏教学研究センター＞は
もっぱら法然上人に関わる研究を行う世界初の研究センターです。
佛教大学の建学理念と研究蓄積を土台とし、法然上人に関わる
基礎研究と浄土宗学を徹底して推進することにより、
本学でしか成しえない法然仏教学の確立を目指します。

センター長あいさつ

2012年に佛教大学は開学100周年を迎え、その際私たちは10年後の
大学像として「佛大Vision2022」を公表しました。このビジョンに基づき、
2014年4月、本学は新たに＜法然仏教学研究センター＞を開設いたし
ました。

本学は、仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を
中心として、それに関わる「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、
仏教精神に基く多様な活動を時代に即して行いながら、世界文化の向上
と人類福祉の増進に貢献することを使命としております。

社会の要請に応えることができる優れた教育を展開するためには、その
基盤となる研究の充実が必要であることは言うまでもありません。特に、法然上人のみ教えを大学設置
の根幹とし、仏教思想とりわけ法然上人の思想に立脚した教育を基底に位置付け、そのもとで有為な
人材の輩出を目指す佛教大学にとって、本研究センターはきわめて重要な意味をもつ機関であります。
また、世界初となる＜法然仏教学研究センター＞の開設は、佛教大学でしか成しえない取り組みである
といえます。

本研究センターでは、今日的な社会情勢を踏まえながら、建学の理念の根幹を形成する法然仏教学
研究の推進ならびに優れた研究者の養成という建学以来の使命を果たすために、本学が有するこれ
までの研究実績を踏まえながら、文献研究の基礎の上に歴史的、文化的、社会的観点をも含めた総合的
アプローチを通じて、法然仏教学を確立し、その成果を広く社会へ発信してまいります。

私たちは、＜法然仏教学研究センター＞ならではの研究を推進し、ここから、法然仏教学の神髄を
世界へ発信してまいる所存です。

皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



2014年4月

佛教大学法然仏教学研究センター
センター長 山極伸之

法然仏教学研究センターの設置目的

本研究センターは、浄土学を中心に仏教学、人文科学、社会科学、自然科学にわたる広い視点から法然仏教学の総合的な学術研究を行い、文化の発展に寄与することを目的として設置しています。具体的には以下の通りです。

- 1) 法然および法然門下、浄土宗教団に関わる教義や歴史の総合的な研究
- 2) 法然および法然門下、浄土宗教団に関わる総合的な研究を通じた法然仏教学の確立
- 3) 法然および法然門下、浄土宗教団に関わる諸文献・諸研究の収集とデータベース構築
- 4) 法然および法然門下、浄土宗教団に関わる研究を推進する研究者の養成
- 5) 法然および法然門下、浄土宗教団に関わる研究成果の一般社会への公表・発信

法然仏教学研究センターの活動趣旨

本研究センターでは、浄土学を中心に、仏教学、人文科学、社会科学、自然科学にわたる広い視点から法然仏教学の総合的な研究を行い、もって文化の発展に寄与することを目的とします。

元来、佛教大学は浄土宗僧侶の養成を目的とした学問所が設立の原点であります。したがって、本学の教育組織の展開は、仏教に基づく有為な人材の養成を基盤としています。また、浄土宗の開祖、法然上人の思想を離れて本学の社会的存在意義を語ることもできません。

加えて、法然上人の思想は、日本仏教の単なる一宗派の枠に到底収まるはずもない思想史上の偉観を有するものであり、世界に発信すべき優れた内容を具えています。ところがこの思想は、そのような重要性を有するにもかかわらず、他の諸宗の祖師に比べて実像解明に関する研究が十分には進んでおりません。

その原因の一端は、法然上人の自筆文献の希少性によるものでありますが、弟子の伝承する文献や、写本・版本さえ、その動向が不明瞭なものも多くみられ、基礎研究としての文献研究において重要な役割を果たすテキストそのものが、未だ「ままならない」状況においては、法然上人の実像解明は極めて困難であると言わなければなりません。

また、法然上人をめぐる思想家や浄土教思想研究に従事する研究者は世界中に存在しますが、彼らがどのような成果を挙げ、どのように研究を進めているのかを把握し、関連する情報を発信することも、法然研究を志す学徒にとってきわめて有意義なものとなります。

散逸する文献の収集、現存の写本・版本や弟子の伝承からの、原本もしくはそれに近い法然文献の比定、定本の確定、それらの解説作業という基礎研究と、それに立脚した確固たる法然思想と歴史的事実の解明、法然上人周辺の思想家の研究と関連する歴史の解明、ならびに浄土宗の歴史解明を進め、それらを広く社会に発信していくことを本センターの基本的な目的とします。

研究体制と活動方針

本センターでは、設置目的にそって総合的多角的に法然仏教の研究を行っていきませんが、基本的に三つの部門を組織し、その下で基礎研究を行う体制をとります。

第一部門 法然の教義解明と『選択本願念仏集』などを中心とする基礎研究

第二部門 浄土宗高祖善導、二祖聖光、三祖良忠等、浄土宗の思想伝統の研究と周辺宗教者の研究

第三部門 浄土宗における僧侶養成(伝法)、教育・教化の研究

これらの部門にそれぞれ班を設け、班ごとに基礎研究を進めます。

部門名	班	研究内容
第一部門	(1) 法然文献班	①元亨版『和語燈録』本文・現代語訳対照本作成
		②桑門秀我『選択本願念仏集講義』現代語訳
	(2)『逆修説法』班	③『逆修説法』諸本対照本作成、古本『漢語燈録』を中心とする本文批判
第二部門	(3)『摧邪輪』班	①明恵『摧邪輪』寛永版訓読・現代語訳
	(4) 門下班	②隆寛『後世物語聞書』高田専修寺本解説・現代語訳
	(5)『往生要集鈔』関係班	③『往生要集鈔』『往生要集義記』諸本対照・訓読・現代語訳
	(6) 中国関係班	④道綽『安楽集』解説・現代語訳・文献批判
第三部門	(7) 伝宗伝戒班	①『真葛伝語』諸本蒐集および教理的根拠の探索
		②聖因『顕浄土伝戒論』、全長『顕浄土伝戒論私記』訓読・注記
		③聖因の身延山本資料蒐集と解説・研究

各班の基礎作業は原則公開とし、特に大学院生の積極的参加を求めます。また月1回程度の研究発表会を催し、研究員の研究発表と、これら研究班の進捗状況確認ならびにディスカッションを行い、こちらも公開します。

また、年に2回程度、外部講師を招いて研究会を開催します。歴史学、国文学、美術史、思想史等関連隣接分野の専門家を招請し、各班の問題点や個々の研究課題について解決を求めています。

必要な文献の調査、収集を常に行い、入手困難な場合は写真撮影などの画像データによる保存を進めます。

これらの作業には大学院生の参加を促し、基礎研究や資料収集などの作業を通じて、研究者としての基盤を培うなど、後進の育成についても責任をもって取り組んでいきます。

佛教大学法然仏教学研究センター

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

電話 075-491-2141(代)

E-mail: honenbc@bukkyo-u.ac.jp